

# その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.024

## a taste of Y'assy

### 田中 康夫



たなかやすお ● '56年生まれ。衆議院議員、新党日本代表、作家。  
'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選、  
'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選。【公式ブ  
ログ】 www.nippon-dream.com/



Orthodoxy II オートドキシイが肝要です。何事に於いても、と冒頭で記すや、ナンジャラホイと困惑する向きが今回も現れるでしょう。端的に申し上げれば、正当性無き小手先の権謀術数は長続きしません。政治も料理も。

後の絵図を明確に提示し得ぬ儘に突入した自由民主党の面々。何れの「知恵」も正統・伝統・保守の気概とは対極の浅知恵です。翻って鳩ちゃんは今も狂言回し役を演じ、民主党分裂を阻止しました。而して亀ちゃんが宰相に

洋氏らと1時間半余に亘って出演した「ニコニコ生放送」の「タイムシフト」IIアーカイヴを視聴したならば得心けるでしょう。一刻も早く視界から消えて欲しいと願うのは簡単。が、その後の戦略も戦術も無き「二刀両断」は、フランス革命後のリパウンドと同じ悲惨な展開を生み出します。事実、可決したなら解散・総選挙と脅していた宰相の周囲で、赤い血ならぬ緑の血が流れるアンドロイドな面々は、前述の翼賛連立を望んでいたのですから。

立法権と行政権を併せ戴く日本の宰相とは実は、米国の大統領よりも強大な権限を有します。本人が辞めない限り、鈴を付けるのは至難の業。他方で人事権も予算権も有する歴代の宰相は、その自覚即ち覚悟を持ち合わせていませんでした。故に、匿名性に護られた財務官僚が背後で跳梁跋扈の「首相機関説」だったのです。

## 最悪な“辞めない宰相”のもとで日本は開闢以来最悪の事態を迎える

### 今週の逸品



### ホワイトアスパラガスの網焼き・トリュフの香りの温泉卵とペゴリーノで 2400円

南青山3丁目交差点からキラー通りを干駄ヶ谷のピクチャースタジオ方向へ向かう途中に「ラ・バタータ」は存在。前菜も主菜も種類も分量は多目。モッツアレラを詰めた花スッキーニのフリット (2200円) を始め

として季節を感じさせる前菜と種類が充実。4800円のコースはアラカルトの中から前菜・鶏類を選択し、食後も愉しめる。主菜の肉か魚を加えた7800円のコースも含め、食後はワゴンの中から複数種選択可能。

【トラットリア ラ・バタータ】東京都渋谷区神宮前2-9-11 シオバラ外苑ビル1F  
☎03-3403-9664 営業12:00~14:00 18:00~23:00 月曜定休・全面禁煙

illustration by Hajime Anzai



開闢以来の最悪の事態を、一向に辞めない最悪の宰相で日本は迎えます。ならば、辞めない宰相の下、真つ当な首相機関説を機能させるべく救国内閣を、復興実施本部を、と亀ちゃんは説いていたのです。6月2日午前10時半、「断腸の思い」で彼が進言した「退陣」に対し、裏切番長菅直人は糊塗に糊塗を重ねています。が、奥方陣子と共にニコライ&エレナ・チャウシエスクの道を急速に歩みつつあるのです。その触媒をも担った亀ちゃんは早晩、次なる「断腸の決断」を行うでしょう。極めてオートドックスな決断を。

土屋孝一氏が営む「トラットリア ラ・バタータ」とは三十有余年の付き合いです。極めてオートドックスでありながら、クラシカルII古色蒼然とは対極の、進取の気性に富む、それでいて人間の体温を有する料理と接客の時空です。故に栄枯盛衰の激しいイタリア料理業界に於いて、魅力を醸し続けているのです。